

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月7日

【四半期会計期間】 第39期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社ベルーナ

【英訳名】 BELLUNA CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 安野 清

【本店の所在の場所】 埼玉県上尾市宮本町4番2号

【電話番号】 048(771)7753(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 松田 智博

【最寄りの連絡場所】 埼玉県上尾市宮本町4番2号

【電話番号】 048(771)7753(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 松田 智博

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第38期 第2四半期 連結累計期間	第39期 第2四半期 連結累計期間	第38期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	60,432	56,314	125,412
経常利益	(百万円)	3,131	2,964	10,431
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,962	2,051	7,013
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	2,086	2,285	7,831
純資産額	(百万円)	68,334	75,158	73,480
総資産額	(百万円)	124,757	136,060	130,648
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	20.18	21.09	72.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	54.8	55.2	56.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	843	3,825	5,766
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	12,304	8,291	15,397
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	10,633	2,602	10,721
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,529	12,649	14,500

回次		第38期 第2四半期 連結会計期間	第39期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	4.13	12.10

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、政府の財政政策や日銀の金融政策などにより、設備投資の増加や雇用情勢の改善など景気回復の兆しが見受けられました。一方で、円安による輸入品価格の上昇や消費税増税による物価上昇への懸念などから消費全般に下押し圧力が高まっており、小売業界を取り巻く環境は、引き続き厳しいものがあります。

このような環境下におきまして、当社グループは引き続きポートフォリオ経営の強化に取り組んで参りましたが、前年同期は大口の不動産販売があったことに対し、当期は駆け込み需要の反動減などもあって、当第2四半期連結累計期間の売上高は56,314百万円（前年同期比6.8%減）となりました。営業利益は不動産販売による利益が大幅に減少したことなどで1,253百万円（同50.4%減）となりました。一方、経常利益は為替相場の変動による利益もあり、2,964百万円（同5.3%減）となり、四半期純利益は2,051百万円（同4.5%増）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

〔総合通販事業〕

不採算広告媒体の廃止・縮小に加え、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動などもあって、売上高は32,309百万円（同11.6%減）となりました。また、セグメント損益は一部資材の値上がりなどもあって296百万円の損失（前年同期は160百万円の損失）となりました。

〔専門通販事業〕

前期に株式を取得した㈱アンファミエと㈱ベストサンクスが加わったことで、売上高は14,577百万円（同29.7%増）となりました。一方で、セグメント損益は顧客獲得へ向けた広告宣伝費への先行投資などで138百万円の損失（前年同期は160百万円の利益）となりました。

〔店舗販売事業〕

アパレル店舗事業に加えて、和装の店舗展開を行っている㈱BANKANが順調に売上を伸ばしたことで、売上高は3,506百万円（同16.7%増）となりました。一方で、セグメント損益は㈱わものやが苦戦したこともあり、100百万円の利益（同12.9%減）となりました。

〔ソリューション事業〕

相対的に利益率の低い通販代行サービスが伸びたことで、売上高は2,347百万円（同2.5%増）、セグメント損益は890百万円の利益（同5.0%減）となりました。

〔ファイナンス事業〕

韓国で消費者金融事業を行っていた連結子会社の株式を前期に売却したことで、売上高は1,251百万円（同28.4%減）となりました。一方で、セグメント損益は利息返還損失引当金繰入額の減少などにより556百万円の利益（同70.2%増）となりました。

〔プロパティ事業〕

前期に大口の不動産販売があったことの反動で大幅な減収減益となり、売上高は1,174百万円（同73.7%減）、セグメント損益は376百万円の利益（同69.2%減）となりました。

〔その他の事業〕

全体として大きな変動もなく、売上高は1,392百万円（同0.8%増）、セグメント損益は115百万円の損失（前年同期は96百万円の損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ、1,850百万円減少し、12,649百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、3,825百万円(前年同期は843百万円の増加)となりました。主たる増加要因は、税金等調整前四半期純利益3,094百万円、売上債権の減少2,232百万円、減価償却費1,168百万円などです。一方で、たな卸資産の増加2,737百万円などが主な減少要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、8,291百万円(前年同期は12,304百万円の減少)となりました。主たる減少要因は、有形固定資産の取得による支出8,982百万円、投資有価証券の取得による支出4,830百万円などです。一方で、有形固定資産の売却による収入2,618百万円、定期預金の払戻による収入1,910百万円などが主な増加要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は、2,602百万円(前年同期は10,633百万円の増加)となりました。主たる増加要因は、長期借入れによる収入3,780百万円、短期借入金の純増減額2,100百万円などです。一方で、長期借入金の返済による支出2,468百万円などが主な減少要因であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に完成したものは次の通りであります。

会社名	事業所（所在地）	セグメントの名称	設備の内容	投資金額 (百万円)	完成年月
㈱ペルーナ	吉見物流センター (埼玉県比企郡)	総合通販他	物流倉庫	11,628	平成26年 8月

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	260,000,000
計	260,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	113,184,548	113,184,548	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	113,184,548	113,184,548	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年9月30日	-	113,184,548	-	10,607	-	11,002

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社フレンドステージ	埼玉県上尾市富士見2丁目1番25号	33,510	29.60
安野 清	埼玉県上尾市	10,934	9.66
ビービーエイチ フォー フィデ リティ ロー プライズド ストック ファンド(プリンシパル オール セクター サポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	10,022	8.85
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	3,758	3.32
安野 公	埼玉県上尾市	3,324	2.93
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	2,246	1.98
野村信託銀行株式会社(退職給 付信託三菱東京UFJ銀行口)	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	1,968	1.73
ペルーナ共栄会	埼玉県上尾市宮本町4番2号	1,916	1.69
みずほ信託銀行株式会社 退職 給付信託 みずほ銀行口 再信 託受託者 資産管理サービス信 託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	1,546	1.36
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALU E PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行 株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	1,242	1.09
計	-	70,472	62.26

(注) 上記のほか、自己株式が15,946千株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 15,946,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 97,167,700	971,677	-
単元未満株式	普通株式 70,448	-	-
発行済株式総数	113,184,548	-	-
総株主の議決権	-	971,677	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、3,700株(議決権の数37個)含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ペルーナ	埼玉県上尾市宮本町4番2号	15,946,400	-	15,946,400	14.08
計	-	15,946,400	-	15,946,400	14.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,401	14,028
受取手形及び売掛金	11,462	9,246
営業貸付金	16,873	16,958
有価証券	436	426
商品及び製品	14,326	17,379
原材料及び貯蔵品	1,182	875
販売用不動産	1,464	1,014
繰延税金資産	758	720
その他	4,493	5,577
貸倒引当金	730	678
流動資産合計	66,667	65,549
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,126	22,195
機械装置及び運搬具（純額）	577	1,056
工具、器具及び備品（純額）	362	374
土地	20,124	22,781
リース資産（純額）	157	437
建設仮勘定	7,400	148
有形固定資産合計	42,748	46,993
無形固定資産		
のれん	3,960	3,749
リース資産	1,230	1,484
その他	2,167	2,606
無形固定資産合計	7,358	7,841
投資その他の資産		
投資有価証券	8,801	12,139
長期貸付金	2,099	490
破産更生債権等	363	277
繰延税金資産	1,080	703
その他	1,875	2,359
貸倒引当金	347	295
投資その他の資産合計	13,873	15,675
固定資産合計	63,980	70,511
資産合計	130,648	136,060

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,193	16,457
短期借入金	1 5,829	1 8,250
未払費用	7,013	6,729
リース債務	393	557
未払法人税等	789	699
賞与引当金	509	522
返品調整引当金	78	75
ポイント引当金	670	598
その他	3,223	2,071
流動負債合計	33,701	35,962
固定負債		
長期借入金	19,557	20,548
利息返還損失引当金	1,099	1,016
リース債務	861	1,345
退職給付に係る負債	186	170
役員退職慰労引当金	236	239
資産除去債務	465	470
その他	1,060	1,150
固定負債合計	23,466	24,939
負債合計	57,167	60,902
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,607	10,607
資本剰余金	11,003	11,003
利益剰余金	60,941	62,384
自己株式	9,676	9,676
株主資本合計	72,875	74,318
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	700	1,026
為替換算調整勘定	104	191
退職給付に係る調整累計額	9	3
その他の包括利益累計額合計	604	839
少数株主持分	0	0
純資産合計	73,480	75,158
負債純資産合計	130,648	136,060

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	60,432	56,314
売上原価	27,329	24,905
売上総利益	33,103	31,409
返品調整引当金繰延差額	0	3
差引売上総利益	33,102	31,412
販売費及び一般管理費	30,576	30,158
営業利益	2,526	1,253
営業外収益		
固定資産税還付金	5	-
為替差益	369	352
デリバティブ評価益	53	901
その他	579	667
営業外収益合計	1,008	1,921
営業外費用		
支払利息	65	57
投資事業組合運用損	163	-
減価償却費	31	55
その他	142	98
営業外費用合計	403	211
経常利益	3,131	2,964
特別利益		
投資有価証券売却益	-	181
特別利益合計	-	181
特別損失		
固定資産除却損	-	50
投資有価証券評価損	43	-
特別損失合計	43	50
税金等調整前四半期純利益	3,087	3,094
法人税、住民税及び事業税	812	710
法人税等調整額	312	332
法人税等合計	1,125	1,043
少数株主損益調整前四半期純利益	1,962	2,051
少数株主損失()	0	0
四半期純利益	1,962	2,051

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,962	2,051
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	326
為替換算調整勘定	142	86
退職給付に係る調整額	-	5
その他の包括利益合計	124	234
四半期包括利益	2,086	2,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,086	2,285
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,087	3,094
減価償却費	1,202	1,168
返品調整引当金の増減額(は減少)	0	3
のれん償却額	100	210
貸倒引当金の増減額(は減少)	47	104
賞与引当金の増減額(は減少)	24	12
退職給付引当金の増減額(は減少)	14	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	24
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4	2
ポイント引当金の増減額(は減少)	9	71
利息返還損失引当金の増減額(は減少)	30	83
受取利息及び受取配当金	219	342
支払利息	65	57
デリバティブ評価損益(は益)	74	901
投資有価証券売却損益(は益)	0	181
投資有価証券評価損益(は益)	43	-
為替差損益(は益)	182	64
固定資産除却損	-	50
売上債権の増減額(は増加)	836	2,232
営業貸付金の増減額(は増加)	1,264	16
たな卸資産の増減額(は増加)	3,244	2,737
販売用不動産の増減額(は増加)	2,282	449
その他の流動資産の増減額(は増加)	639	28
仕入債務の増減額(は減少)	136	1,153
その他の流動負債の増減額(は減少)	128	42
その他の固定負債の増減額(は減少)	38	3
その他	247	336
小計	3,345	4,411
利息及び配当金の受取額	209	286
利息の支払額	65	56
法人税等の還付額	33	5
法人税等の支払額	2,678	821
営業活動によるキャッシュ・フロー	843	3,825

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,945	1,325
定期預金の払戻による収入	1,536	1,910
有価証券の取得による支出	194	-
有価証券の売却による収入	844	241
有形固定資産の取得による支出	4,637	8,982
有形固定資産の売却による収入	-	2,618
無形固定資産の取得による支出	182	1,029
投資有価証券の取得による支出	2,310	4,830
投資有価証券の売却による収入	348	1,851
子会社株式の取得による支出	5,506	-
貸付けによる支出	349	343
貸付金の回収による収入	41	1,610
差入保証金の差入による支出	57	55
差入保証金の回収による収入	112	63
その他の支出	11	20
その他の収入	6	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,304	8,291
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,900	2,100
長期借入れによる収入	15,000	3,780
長期借入金の返済による支出	5,656	2,468
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	364	607
リース債務の返済による支出	245	201
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,633	2,602
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	12
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	804	1,850
現金及び現金同等物の期首残高	13,334	14,500
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,529	12,649

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法については期間定額基準を継続適用し、割引率の決定方法については従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。

なお、この変更に伴う期首の利益剰余金並びに損益に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約等を締結しております。これらの契約に基づく当第2四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	12,250百万円	12,250百万円
借入実行残高	1,010	3,110
差引額	11,240	9,140

- 2 連帯保証債務

下記のとおり連帯保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
(株)守礼(注)	309	295

(注) 金融機関からの借入金に対して連帯保証を行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
広告宣伝費	8,161百万円	8,475百万円
貸倒引当金繰入額	856	299
利息返還損失引当金繰入額	263	121
ポイント引当金繰入額	509	461
賞与引当金繰入額	492	510
役員退職慰労引当金繰入額	4	4
退職給付費用	32	25

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	14,470百万円	14,028百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,948	1,378
有価証券勘定に含まれるMMF等	8	-
現金及び現金同等物	12,529	12,649

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	364百万円	7.5円	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額については当該株式分割前の金額を記載しております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月1日 取締役会	普通株式	607百万円	12.5円	平成25年9月30日	平成25年12月6日	利益剰余金

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額については当該株式分割前の金額を記載しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	607百万円	6.25円	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	607百万円	6.25円	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	総合通販 事業	専門通販 事業	店舗販売 事業	ソリュー ション 事業	ファイナンス 事業	プロパティ 事業	その他の 事業	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高									
外部顧客への売上高	36,495	11,235	3,005	2,115	1,748	4,464	1,367	-	60,432
セグメント間の内部 売上高又は振替高	36	0	-	175	-	-	13	227	-
計	36,532	11,236	3,005	2,291	1,748	4,464	1,381	227	60,432
セグメント利益 (又はセグメント損失)	160	160	114	937	326	1,222	96	22	2,526

(注) 1. セグメント利益(又はセグメント損失)の調整額は、セグメント間の連結消去仕訳123百万円とのれん償却費100百万円であります。

2. セグメント利益(又はセグメント損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当社は、平成25年8月30日付で㈱アンファミエの株式を新たに取得したことにより、同社を連結子会社といたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、「専門通販事業」セグメント4,205百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	総合通販 事業	専門通販 事業	店舗販売 事業	ソリュー ション 事業	ファイナンス 事業	プロパティ 事業	その他の 事業	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高									
外部顧客への売上高	32,283	14,576	3,506	2,155	1,251	1,174	1,366	-	56,314
セグメント間の内部 売上高又は振替高	26	0	-	191	-	-	25	243	-
計	32,309	14,577	3,506	2,347	1,251	1,174	1,392	243	56,314
セグメント利益 (又はセグメント損失)	296	138	100	890	556	376	115	118	1,253

(注) 1. セグメント利益(又はセグメント損失)の調整額は、セグメント間の連結消去仕訳91百万円とのれん償却費210百万円であります。

2. セグメント利益(又はセグメント損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	20円18銭	21円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,962	2,051
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,962	2,051
普通株式の期中平均株式数(千株)	97,239	97,238

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

(1) 決算日後の状況

特記事項はありません。

(2) 平成26年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....607百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....6円25銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年12月5日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

(3) 訴訟

当社グループ(当社及び連結子会社)に対して、日本郵便株式会社より低料第三種郵便の不正利用に関し、正規料金との差額支払請求(1,012百万円：平成24年11月21日、日本郵便株式会社からの「請求の趣旨の変更申立」により、1,263百万円から差額支払請求額が変更)の訴えが平成21年12月22日に提起されております(東京地方裁判所からの訴状の受領日：平成22年1月21日)。係る提訴について、当社グループとしては請求の原因に対する債務不存在の主張について立証していく所存であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

株式会社ペルーナ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 布施 木 孝 叔 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 澤 祥 次 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ペルーナの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ペルーナ及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。